

速報!
国内初

環状に並んだ土坑墓群



鹿児島県立埋蔵文化財センター 現地公開

立塚遺跡

埋蔵文化財センターが、主要地方道鹿屋吾平佐多線（吾平道路）改築事業に伴い発掘調査を実施している立塚遺跡（鹿屋市吾平町麓）で、国内初となる弥生時代早期（約2,800年前）の環状に配置された土坑墓群が見つかりました。

このように環状に配置された土坑墓は、弥生時代では知られておらず、南九州独特の墓制であると考えられます。



並んで見つかった土坑墓



完掘した土坑墓

開催日時 令和4年11月11日（金） 午後1時30分～午後3時

実施内容 遺跡の概要説明、土坑墓群と主な出土品の展示見学

開催場所 立塚遺跡（鹿屋市吾平町麓）

問合せ先 鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター
霧島市国分上野原縄文の森2番1号
<https://www.jomon-no-mori.jp/>



ホームページ

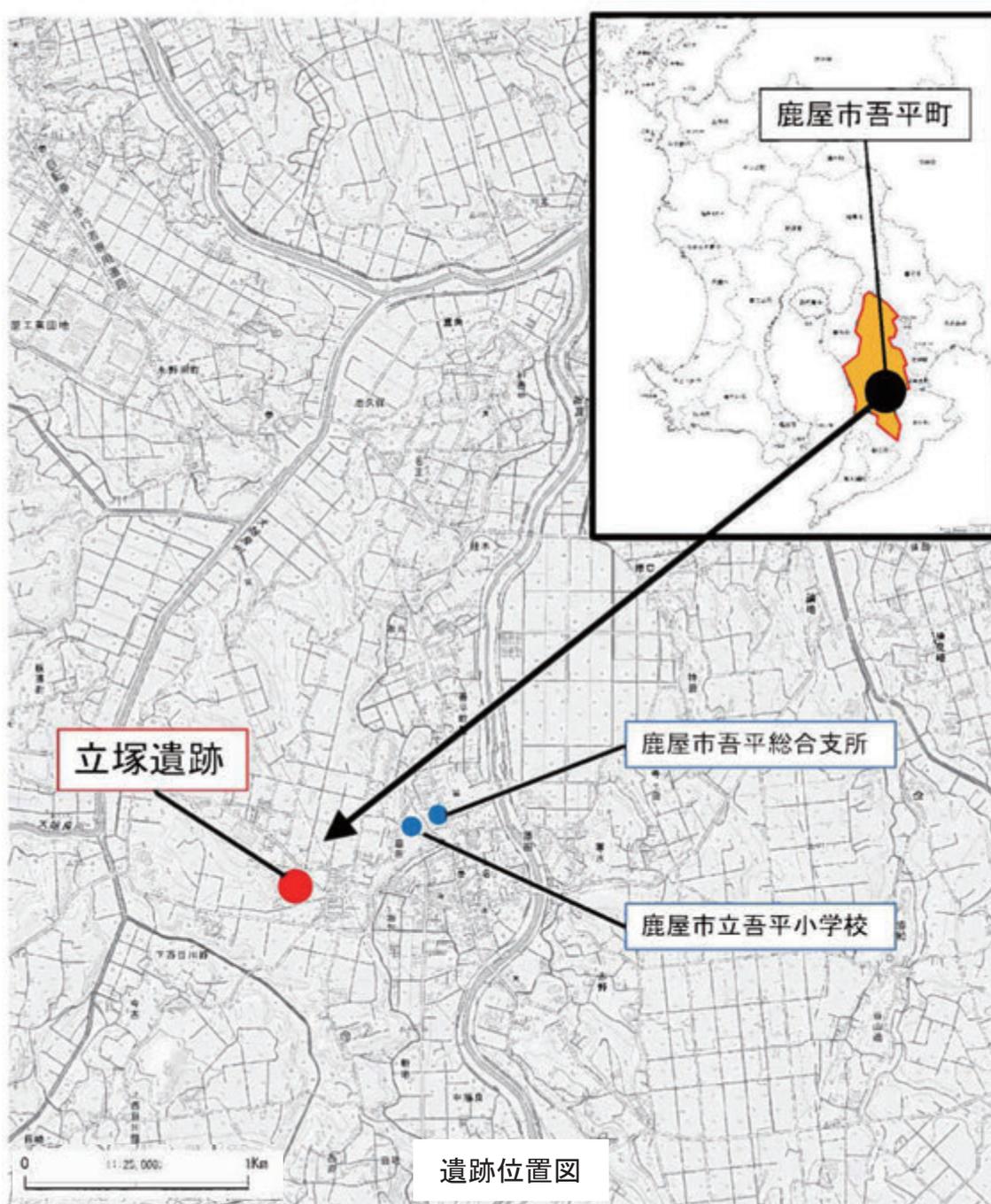


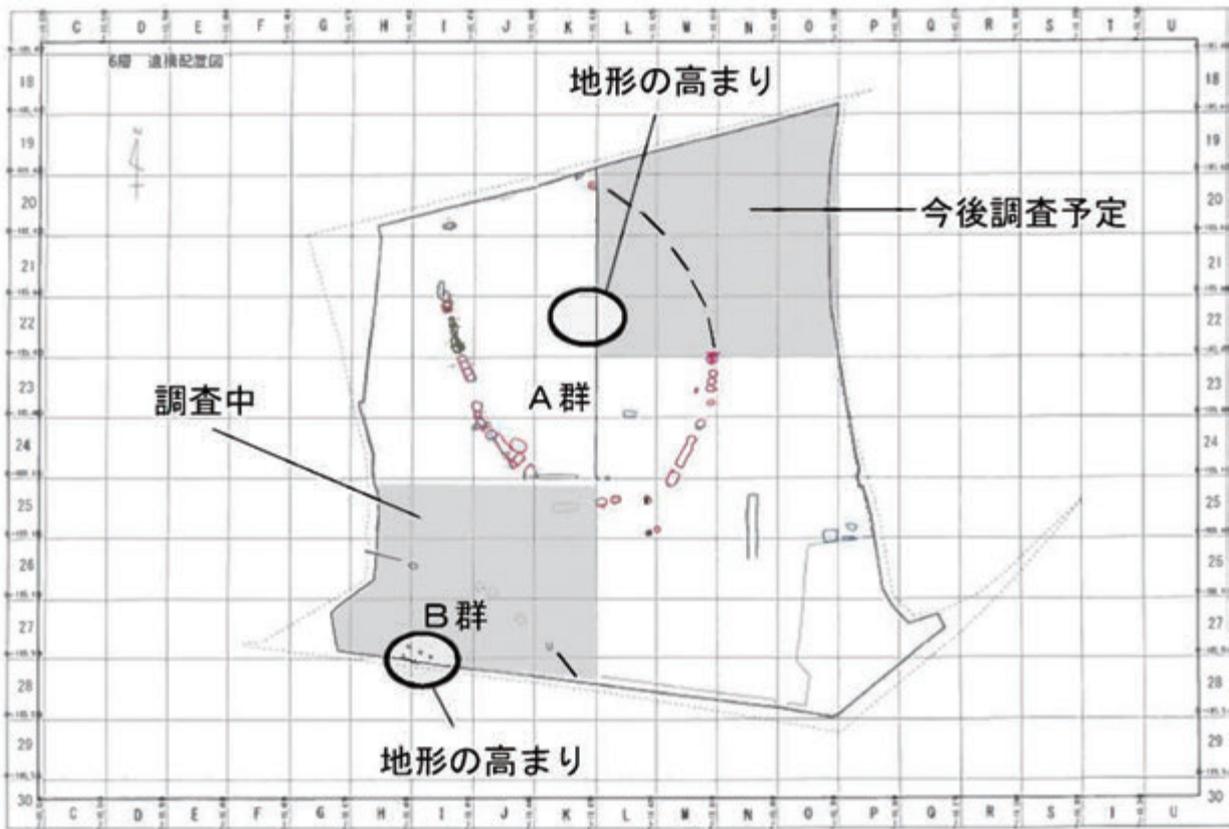
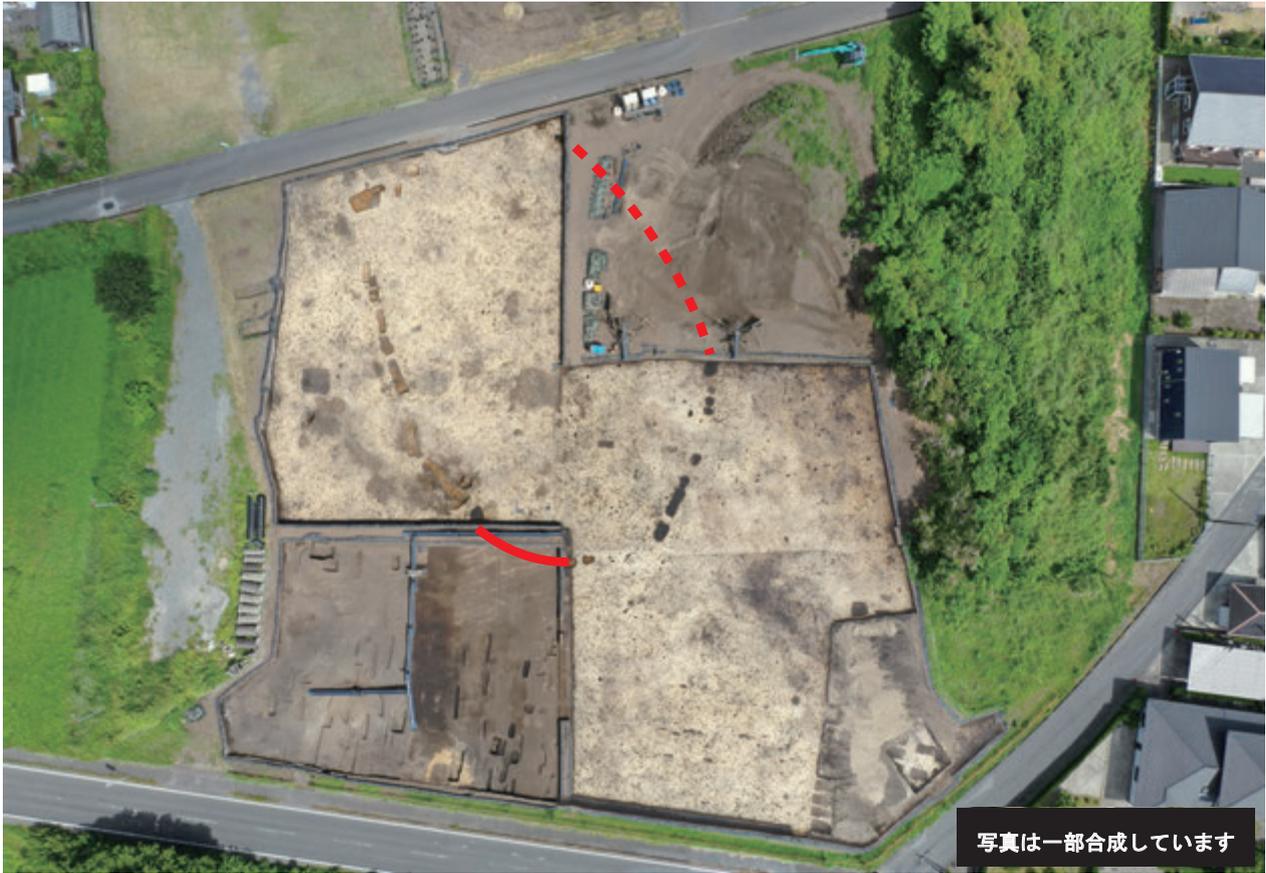
Facebook



立塚遺跡の概要

所在地 鹿屋市吾平町麓名主 3998 番地
調査起因 (主要地方道) 鹿屋吾平佐多線 (吾平道路) 改築事業
事業主体 鹿児島県土木部道路建設課 (大隅地域振興局)
調査主体 鹿児島県教育委員会
調査期間 令和 2 年度～令和 4 年度
主な時代 縄文時代晩期～弥生時代前期, 弥生時代中期, 古代





環状に配置された土坑（墓）群 上：空撮 下：平面図



① 土坑（墓）群（L・M-22～25区） ②土坑（墓）一部 ③埋葬想定写真

◆土坑（墓）群の詳細

時 期 弥生時代早期～前期

形状ほか 土坑の大きさ 0.8m×0.5m～6.5m×1.3m，平面観は長方形，方形
環状に配置された2群（A，B）の土坑群を検出。A群は，約60m×40mの
楕円形。B群の規模は不明（調査中）。

総 数 30基以上

立塚遺跡の土坑（墓）は地形の高まりの周囲に配置され，高い部分には大きな柱穴列（直径70cm，5基）等もみられます。周辺で出土している遺物は，壺形土器や精製（精緻に作られている）の皿，精製の台付鉢形土器など通常集落遺跡と器種が異なっており，特に朱塗りの壺形土器は墓地からの出土例が多くみられます。

また，墓のある場所にあとからさらに墓を掘ることで，切り合い関係になっている土坑もみられます。このような墓の作り方は，同時期の北部九州で類例があり，その場合，もとの墓の被葬者の親族を葬っています。立塚遺跡でも同様の埋葬が行われていた可能性が考えられます。

このように環状に配置された土坑墓は，弥生時代の早期～前期としては，国内初の発見となりました。また，環状に土坑墓を配置する作り方は，環状集落や環状列石など縄文文化に特徴的にみられるもので，縄文時代の精神文化を受け継いでいると考えられます。